

見守り活動を始めるときの3つのポイント！

■ まずは顔の見える関係づくりから！

鋼管通2丁目町内会では、見守り活動を始めるときの当たり、町内会の活動の基本となる「向こう三軒両隣り」の人間関係を取り戻すため、お茶会を開いて顔見知りになることから始めました。また、浜町1丁目老人クラブでは、グラウンドゴルフやカラオケなど、趣味を通して交流を深め、顔の見える関係を作ってから、見守り活動へと発展させています。



■ 町内の人材を有効に活用しよう！

町内には、イベントの開催が得意な人、広報が得意な人など、色々なスキルや特技を持った人材が集まっています。こういった人材を活用することで、町内会の活動や見守り活動が活性化します。

■ 決して無理をせず、活動を強制しないことが長く続けるコツ！

藤崎町内会では、朝の登校時の見守りパトロールを毎日実施していますが、体調の良くない日や予定のある日には参加を強制せず、過度の負担を感じないように取り組んでいます。また、愛犬家は毎日、散歩をすることに着目し、「わんわんパトロール」を開始するなど、活動が継続的に行われるような工夫もしています。

～区民会議からのメッセージ～ 見守り活動を始めませんか？

鋼管通2丁目町内会では、見守り活動を始めたことで、より多くの人が見守り活動に興味を持つ、町内会の活動に参加するようになる、そして、町内会の加入促進につながるという好循環が生まれています。

見守り活動を通して、住民ひとりひとりが力を合わせ、今後の高齢化社会においても、だれもが安心していきいきと地域に住み続ける環境を作っていきましょう。



見守り活動を行うに当たって ～個人情報取扱いを適切に～

見守り活動を進めていくに当たっては、見守りの対象者の個人情報の保護がとても重要となります。一方で、様々な団体が連携して複数の目で対象者を見守る活動を行うためには、個人情報を共有することも必要です。そのため、個人情報の取扱い、保護について、見守りの対象者にきちんと説明し、納得してもらった上で、見守り活動を行うことが大切です。

『地域における見守り活動』に関する調査報告書（概要版）

平成28年3月 第5期川崎区区民会議 だれもがいきいき暮らす部会
◆本報告書の詳細版は、以下の川崎区区民会議ホームページをご覧ください。
<http://www.city.kawasaki.jp/kawasaki/category/94-10-1-15-0-0-0-0-0-0.html>



第5期川崎区区民会議



広げよう！見守りの輪

地域の見守り活動を紹介します！

『地域における見守り活動』に関する調査報告書（概要版）

区民会議で行った「地域における見守り活動」に関する調査結果

第5期川崎区区民会議では、「地域における見守り活動の充実」をテーマの1つとして審議を進め、区内の関係機関・団体等が実施している高齢者やこどもの見守り活動の実態を把握するため、アンケート調査を行い、多くの団体から回答（64.3%）をいただきました。さらに、その結果から取組内容に特色のある4団体について、ヒアリング調査を実施しました（詳細は次ページで紹介）。

■ アンケート調査概要

区内で活動する高齢者及び子育て支援関係団体 140 団体
 ・有効回答数：90 団体
 ・回答率：64.3%
 ・配布・回収方法：郵送又は直接配布・回収

団体名	依頼数	回答数	回答率
町内会・自治会	44	27	61.4%
民生委員児童委員	12	12	100.0%
地区社会福祉協議会	10	2	20.0%
老人クラブ	30	20	66.7%
小中学校PTA	30	21	70.0%
母親クラブ・子育てグループ	14	8	57.1%
合計	140	90	64.3%

■ 見守り活動ランキング

高齢者への活動事例

- 1位：「見守り・安否確認」
- 2位：「会食、配食」
- 3位：「健康づくり」

子どもへの活動事例

- 1位：「保護者の交流」
- 2位：「子育て支援」
- 3位：「登下校の見守り」

その他の事例

- ・家の周りの掃除
- ・草取り、病院の送迎
- ・登下校の見守り自転車パトロール

■ 現在の活動の課題

・「人員不足」（42件）、「人材育成」（21件）と団体の人材に課題があるとの回答が最も多く、次いで、「財源」（13件）、「地域の理解」（12件）の順になっています。

■ 今後の見守り活動の活性化に向けて

・活動の充実・継続（16件）が最も多く、次いで、人材育成・人材不足の解消（12件）、広報の強化（8件）と近隣住民の理解・協力（8件）が同数で続いています。

取組事例1

銅管通2丁目町内会

独自の見守り活動を行う先進的町内会！

●高齢者の孤独死がきっかけで始まった見守り活動

町内で一人暮らし高齢者の孤独死があったことがきっかけで、町内の見守りを民生委員だけに任せるのではなく、自分達もできることをやろうと考え、町内会独自の見守り活動を始めました。

●まずはお互いの顔を知ることから

見守り活動を始めると同時に、まずはブロック毎にお茶会を開いて、お互いの顔を知ることからスタート。①日常見守り（日常の声掛け）、②定期見守り（月2回）、③災害時救護の3種類の見守りのうち、どれを希望するか全戸にアンケート調査を実施し、町内会の未加入者でも希望した人を対象に見守り活動を開始。

●見守り活動が軌道に乗った理由とは…

「町会長のちょっとしたリーダーシップ、青年会との連携が大きな役割を果たした。どこの町内会でも、誰かがやる気になれば、見守り活動を始めることができる。」と丸野町会長は語ってくれました。



取組事例2

浜町1丁目老人クラブ

老人クラブの友愛チームによる見守り活動を実施！

●趣味を通して楽しく活動

浜町1丁目老人クラブの主な活動は、グラウンドゴルフ、ゲートボール、カラオケ、踊りなど。共通の趣味を通して、楽しく人間関係を作っています。



ティッシュペーパーなど、ちょっとしたお土産を渡しながら訪問



●世間話をしながら、月1回の見守り活動

5人体制で友愛チームを結成し、見守りを行っています。活動の内容は、対象者への日常の声掛け、話し相手になること、必要に応じて関係機関につなぐことの3つ。

訪問時に困っていることはないかと聞いても遠慮して返ってこないのが、積極的に声を掛け、多少おせっかいと思われても、家の外の掃除や落ち葉を掃いたりしています。

取組事例3

藤崎町内会

広い町内会を自転車で毎日パトロール！

●事件をきっかけに始まった見守り活動

平成18年に女子中学生が不審者にスカートが切られる事件が起こり、地元の住民で何かできることはないかと検討を重ね、朝の登校時見守りパトロールが始まりました。

●自転車と犬の散歩で防犯パトロールを毎日実施！

藤崎町内会は、町内会加入世帯数が約3,200世帯と区内最大の町内会。面積も広いので、自転車でパトロールを実施。愛犬の散歩をする人にも声を掛け、お揃いの黄色のジャンパーを着て愛犬の散歩をする「わんわんパトロール」も実施。

●治安の向上に効果あり！

見守りパトロールを始めた当時は小学校1年生だった子どもが中学生になるなど、子どもの成長を見守れることがやりがいになっています。見守りパトロールを始めたことで、犯罪の抑止力が高まり、犯罪が減り、まちの雰囲気以前よりも良くなっていると感じる人が増えています。



取組事例4

セソール川崎京町ハイライズ自治会

マンションの自治会による見守り活動の成功事例！

●自治会の加入率は約95%！！

マンションの管理組合が自治会を兼ねていることが一般的に多い中で、セソール川崎京町ハイライズ自治会では、管理組合とは別組織で任意加入とし、お互いが連携しながら、うまく活動しています。また、500世帯を超える大型マンションですが、自治会加入率は約95%と、とても高い状況にあります。マンションの建設直後に管理組合を設立し、間もなく、自治会も設立できたことが高い加入率のポイントです。



憩いの場の談話室で食事会

●談話室が高齢者の憩いの場

一人暮らし高齢者が増えてきたことから、これまで展示室だった部屋を改装し、高齢者に談話室として開放しており、見守りを兼ねた憩いの場になっています。

また、旬の野菜を使った食事会の開催や全世帯が対象の日帰り遠足を行っているほか、毎年、70歳以上の人の自宅を訪問して、記念品を配る際に、様子を伺ったり、困っていることがないかなどを聞いています。